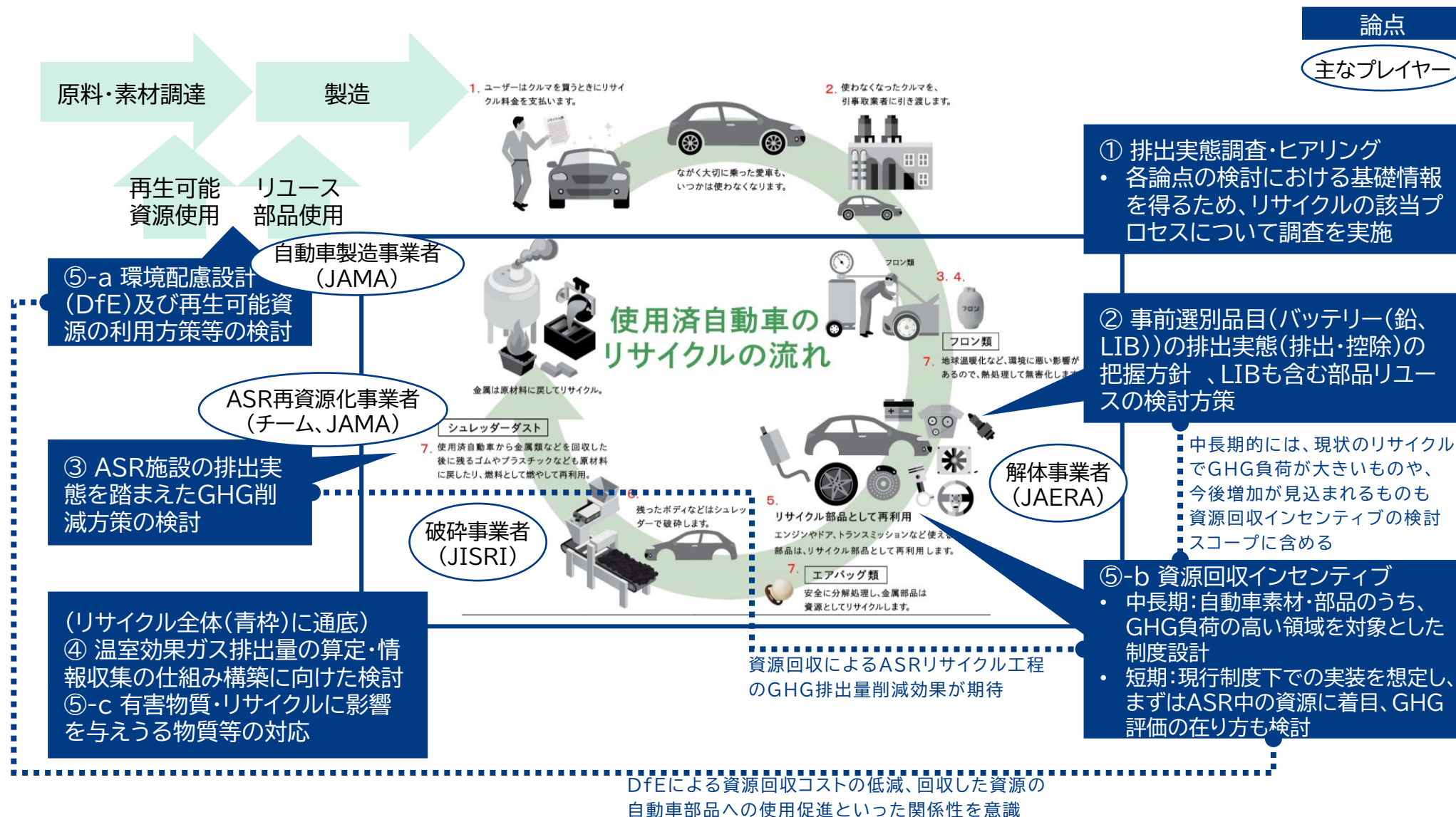


次年度以降の調査・検討スケジュール(案)について

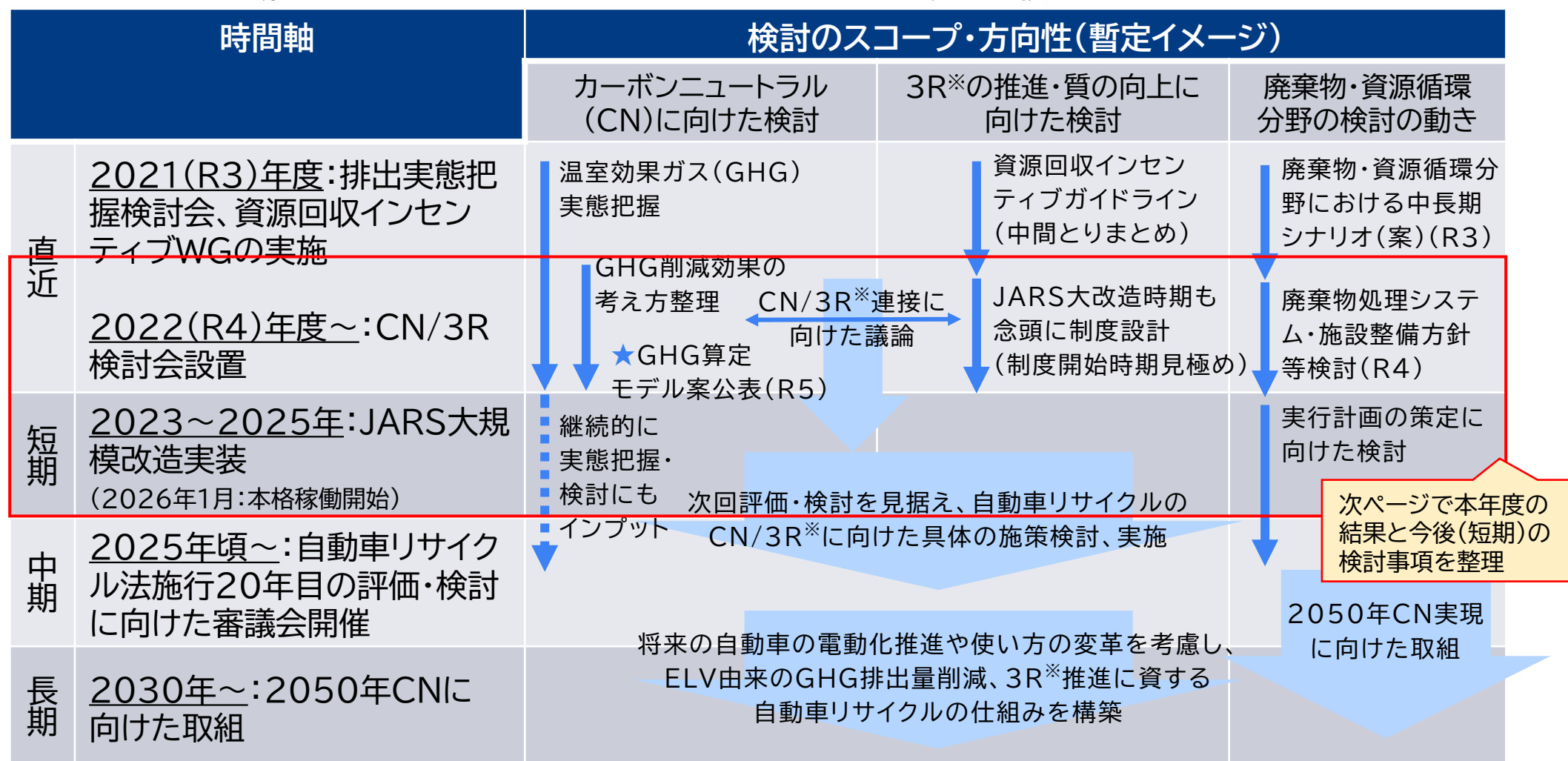
自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上について 第2回検討会資料抜粋

自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上について 検討会 論点間の関係について(再整理)



今後の検討における時間軸と方向性のイメージ

- 自動車リサイクルにおける今後の検討について、廃棄物・資源循環分野全体の検討との整合・連動も意識しつつ、下表に示す短期～長期の時間軸を念頭に、議論を実施してはどうか。
- 温室効果ガス排出実態把握は次年度以降も引き続き進め、今後の検討にもフィードバックする。



論点ごとの調査・検討結果と今後の検討事項(案)(1/2)

論点	令和4年度の調査・検討結果	今後の検討事項(案) (<u>下線</u> :特に令和5年度に注力する事項)
① 排出実態調査・ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> 特に、解体・破碎・ASRリサイクルの各プロセスについて、業界団体・個社へのヒアリングを実施。 各プロセスにおいて、GHG排出傾向の差を踏まえたパターン分けの仮説を構築し、ヒアリング調査で得られた知見を基に考察を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>引き続き、解体・破碎・ASRリサイクルについて、ヒアリング等を通じたデータ収集を実施。可能な部分について、令和3年度の全国値の推計結果を更新。(R5)</u> <u>CN/3R推進方策の議論に必要な推計精度に到達できたかを確認し、具体的な方策案の検討を開始。(R5～)</u> 全国値推計結果の時点更新方法、将来推計の必要性等を検討。(R6～)
② 事前選別品目(バッテリー(鉛、LIB))の排出実態(排出・控除)の把握方針、LIBも含む部品リユースの検討方策	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は算定が未実施であった、再利用可能部品・LIBについて、リユース・リサイクルによるGHG排出量控除も含めた算定に向けて、考え方の整理や、基礎データ収集を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>再利用可能部品は、入手可能なデータを用いて、リユース・リサイクルによるGHG排出量控除も含めた試算を実施。(R5)</u> LIBは、今後、環境省や他省庁で別途実施される流通実態調査、GHG排出量関連調査等の知見を確認。(R5～) その後本調査・検討における論点を改めて整理。(R6～)
③ ASR施設の排出実態を踏まえたGHG削減方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 公開情報から、ASR再資源化施設におけるGHG削減取組状況を調査。 事業者全体としてのCNに向けた取組に言及した例はある一方、ASR処理に特化した言及は見られず。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>①で得られたASRリサイクル工程ごとのGHG排出に関する特徴の差異を踏まえ、特にGHG排出量への寄与が大きい工程を中心に、排出量削減に向けて考えられる取組・施策等を検討。(R5～)</u> <u>熱回収・マテリアル回収によるGHG排出量控除の考え方の整理や、基礎データ収集を実施。(R5～)</u>

論点ごとの調査・検討結果と今後の検討事項(案)(2/2)

論点	令和4年度の調査・検討結果	今後の検討事項(案) (<u>下線</u> :特に令和5年度に注力する事項)
④ 温室効果ガス排出量の算定・情報収集の仕組み構築に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ①で得られた示唆も踏まえ、事業者が自社のGHG排出量算定のために使用する算定モデルの骨子を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>令和5年度中の公表に向けて、骨子を基に算定モデルを構築。(R5)</u> 事業者における算定モデル活用を促すための工夫や仕組みの在り方を検討。(R6～) 算定モデルを改良・改修できたタイミングで更新版を公表。(R6～)
⑤-a 環境配慮設計(DfE)及び再生可能資源の利用方策等の検討	<ul style="list-style-type: none"> 自動車における再生資源やバイオマスプラスチック利用動向に関する基礎情報収集を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用済自動車由来(※)も含めた再生資源やバイオマスプラスチックの自動車部品への利用を促す方策等を検討。(R6～) (※⑤-b資源回収インセンティブによる回収量増加も期待される)
⑤-b 資源回収インセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> 制度の検討にあたり、ASR削減や資源循環の観点に加え、CNの観点も含めて検討を行う方針を確認。 制度開始時点では、プラスチック、ガラスを対象と資源する考え方を整理。JARS大規模改造後に把握可能なデータ・情報も活用し、別途の形でGHG評価を行う方針を確認。 過去事業の知見から、使用済自動車由来のプラスチックやガラスのリサイクルによるGHG排出量削減効果を試算。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>引き続き、プラスチック、ガラス以外の他の部品・資源も含め、回収を促進すべき資源を検討。(R5～)</u> <u>制度開始時点でのGHG評価実施を見据えて、①②で得られる知見も踏まえ、評価に必要なパラメータ等を整備。(R5～)</u> <p>(資源回収インセンティブWGにおいて、制度具体化に向けた検討を実施)</p>
⑤-c 有害物質・リサイクルに影響を与える物質等の対応	<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動車の普及に伴う車載用電池、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)等の処理、自動車に使用される化学物質等の適正管理といった論点を提示。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、関連する動向の情報収集を実施。(適宜実施) 国際議論等の結果、自動車リサイクルでも対応が必要な事項が生じる場合、CN/3R推進への影響について議論。(適宜実施)

令和5年度調査・検討スケジュール(案)

- 令和5年度調査・検討の実施計画案は以下の通り。

年	2023年			2024年
月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
検討会	四半期に1回程度、計4回程度を想定			
① 排出実態調査・ヒアリング ② 事前選別品目(バッテリー(鉛、LIB))の排出実態(排出・控除)の把握方針、LIBも含む部品リユースの検討方策	解体・破砕・事前選別品目の実態把握調査	全国推計値の更新検討	排出実態・課題を踏まえた排出削減方策案の検討・議論	
	再利用可能部品の排出量控除の考え方整理・控除量の試算			
③ ASR施設の排出実態を踏まえたGHG削減方策の検討	ASRリサイクル施設の実態把握調査		排出実態・課題を踏まえた排出削減方策案の検討・議論	
④ 温室効果ガス排出量の算定・情報収集の仕組み構築に向けた検討		排出実態を踏まえた算定モデル構築	算定モデル第一版公表	
⑤-b 資源回収インセンティブ	回収を促進すべき部品・資源の考え方整理		(必要に応じて継続検討・議論)	
			排出実態を踏まえた、制度開始時点のGHG評価に必要なパラメータ等の整備	
⑤-a 環境配慮設計(DfE)及び再生可能資源の利用方策等の検討 ⑤-c 有害物質・リサイクルに影響を与える物質等の対応	国内外の動向について引き続き情報収集			